

【プロが解説】招待状準備に関するよくあるご質問 (FAQ)

招待状の準備でよくいただくご質問をまとめました。スムーズな準備にお役立てください。

Q1. 入籍済みの場合、招待状の差出人は新姓連名にすべきですか？

A. 必ずしも新姓である必要はありません。

すでに入籍を済ませていて、周囲へのご報告が完了している場合は「新姓連名」にすることが多いですが、まだご報告が済んでいない場合などは「旧姓フルネーム」で記載することも一般的。招待状は「旧姓を使う最後のチャンス！」などと捉え、あえて旧姓表記にする新郎新婦様も多くいらっしゃいます。

Q2. 婿入りの場合、差出人の表記はどうなりますか？

A. 基本的には「新郎を新姓（旧姓）フルネーム」「新婦をお名前のみ」で表記します。ただし、婿入りという選択をネガティブに捉えるケースや、ご本人たちの意向は様々です。ご入籍済みであっても、新郎様が「旧姓での活躍」を大切にしたいという思いがあれば、旧姓で表記することも可能です。

こうした点は非常にデリケートな問題ですので、伝統的な形式を押し付けるのではなく、おふたりの意向を尊重し、選択肢を柔軟に提示してあげてください。最終的には、家同士の結びつきやご両家の考え方にも関わる部分ですので、親御様とも慎重に相談の上、納得のいく表記を決めていただくようサポートしましょう。

Q3. 本文の下になぜ日付ではなく「吉日」と書くのですか？

A. 吉日」には「その月の佳き日を選んで書き上げました」という意味が込められています。具体的な日付を記すのではなく、あえて「吉日」とすることで、その月全体が結婚を祝福する特別な期間であるという、日本らしい奥ゆかしく丁寧な配慮を表しています。実際に作成した日と一致させる必要はなく、発送する月の「佳き日」として一律に表記します。・送迎バスの要否など項目を設け、届いたら即日記入する習慣をつけると漏れを防げます。

Q4. 上司や目上の人へもWEB招待状を送って失礼になりませんか？

A. 利便性の面から上司や目上の方にもWEB招待状を送るケースも増えていますが、伝統的な形式を重んじる場合にはやはり「紙の招待状を手渡しする」ことが最も丁寧です。もしWEB招待状を採用される場合は、事前に口頭やご招待したい旨をお伝えした上で、「このような形式で大変恐縮ですが」と一言添えてメールなどでWEB招待状を送付することを伝えるとより丁寧でしょう。

Q5. 受付は誰に、いつ依頼すべきですか？

A. 受付係はゲストの皆様の窓口となる重要なお役目です。ご親族紹介や集合写真などに影響しないよう、ご友人や同僚にご依頼することが一般的です。かつては招待状発送時に正式依頼するのが通例でしたが、現在は「出席の返事が届いてから」依頼するカップルも増えていきます。ただし、遠方からお越しのゲストや、当日の美容院予約などが必要な女性ゲストに依頼する場合のことを考慮し、早めにお声がけするのがベターです。ゆとりを持って準備できるよう、候補者には早めに相談することをおすすめします。

Q6. 招待状の発送・返信で避けるべき時期はありますか？

A. ゲストの生活リズムや郵便事情を考慮し、以下の期間は発送・返信期日を避けるのがマナーです。

- ・年末年始（クリスマス以降から松の内まで）、春・秋の彼岸、お盆
- ・GWやシルバーウィークなど大型連休は、旅行・帰省、また郵便局の休業などと重なる可能性が高いため、避けるのが賢明です。

Wedding

教えてラボ

©2026 Wedding Oshiete Lab. All Rights Reserved.